

資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
広報企画事業（A03）	協力調整官 情報調整室	67
ホームページ及び公開データベースの作成・運営（A08）	情報調整室	68
黒田記念室の公開（B10）	美術部	70
黒田清輝巡回展（B11）	美術部	71
所蔵作品の貸与（B12）	美術部	71
資料閲覧室運営（A04）	情報調整室	72
国際資料室の整備・公開・活用（F08）	国際文化財保存修復協力センター	73
伝統芸能の画像・音声・映像資料のデジタル化（C06）	芸能部	73
文化財保存に関する国際情報の収集及び研究（F07）	国際文化財保存修復協力センター	74
システム管理（A02）	情報調整室	75
写真室の運営・設備（*A06、A07）	情報調整室	76

*注 写真室の運営・設備は、画像資料の収集・整理（A06）及び写真機材・設備（A07）の二つの事業の成果を総合して報告した。

広報企画事業（ A03-02-2/5 ）

協力調整官 情報調整室では、各研究部門の研究成果を外部へ発信すべく東文研 NEWS・概要・年報を定期的に発行し、ホームページの統括・作成を行っている。

1) 東文研 NEWS

年 4 号を編集。研究所の研究活動のうち、速報性と公共性の高い情報を記事にして伝えている。平成 14 年度は、下記にしたがって 4 号を刊行したほか、各号は、PDF ファイルに変換し、ホームページ上で公開している。

- 9 2002 年 6 月発行 全 8 頁 図版 15 件
- 10 2002 年 9 月発行 全 8 頁 図版 18 件
- 11 2003 年 1 月発行 全 12 頁 図版 26 件
- 12 2003 年 3 月発行 全 14 頁 図版 32 件

東文研 NEWS No.12, 03.3



2) 概要

各年度のはじめに編集。研究所の組織の紹介や、各部ごとの当該年度のプロジェクトの紹介を、視覚的にわかりやすく、日英 2 カ国語で行っている。

2002 年度版 2002 年 5 月発行 全 33 頁



3) 年報

各年度のはじめに編集。前年度の研究所の組織のほか、年次計画にもとづいたプロジェクト研究、科学研究費や受託研究による研究の成果、その他、さまざまな研究会・研修等、研究所における全ての活動を網羅して報告するもので、自己点検評価・外部評価における基礎資料として活用できるよう編集している。

2001 年度版 2002 年 5 月発行 全 222 頁



研究組織

大塚 英明（協力調整官）、井手誠之輔、塩谷 純、中村 明子（以上、情報調整室）

ホームページ及び公開データベースの作成・運営 (A08-02-1/4)

当研究所のホームページは広報の場であるとともに、文化財研究のための基礎資料を網羅し、さらにそれを有機的に関連づけるデジタル・アーカイブ構想の有力なメディアとして機能している。なかでも黒田記念館のページでは、記念館が所蔵する黒田清輝の作品の紹介だけでなく、日記・書簡・自筆文献・白馬会関係資料等の基礎資料を提供し、黒田清輝研究のための知的データベースとして、より機能と内容の充実を図っている。平成 14 年度に作成したコンテンツには、白馬会関係新聞記事全文の掲載がある。この資料は、植野健造氏（石橋財団石橋美術館学芸課長）が九州大学に提出した博士論文「日本近代洋画の成立 白馬会」の資料編として収集されたデータを、ご本人の了承をえて公開したものである。今後も、研究所内外の研究者の協力を仰ぎつつ、研究性の高いホームページの作成を目指したい。

なお、各部のページは、自主的に更新されている。芸能部のページでは、実演記録を動画で視聴できるほか、保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センターが合同して刊行している『保存科学』や、情報調整室が編集する東文研ニュース・年報が、いずれも PDF 版として公開されている。

平成 14 年度のホームページアクセス件数一覧

・ 4 月	39,979 件	・ 5 月	50,617 件	・ 6 月	42,018 件	・ 7 月	34,773 件
・ 8 月	48,274 件	・ 9 月	58,258 件	・ 10 月	56,004 件	・ 11 月	46,612 件
・ 12 月	46,120 件	・ 1 月	56,425 件	・ 2 月	45,826 件	・ 3 月	47,428 件

年間アクセス総数：572,334 件

平成 13 年度アクセス総数との対比 159,396 件増加



白馬会関係新聞記事のページ



新聞記事全文

公開データベースの作成と運用

東京文化財研究所では、情報調整室が中心となって各研究部が作成する研究情報を統合し、所内および外部での利用に供している。

内部公開データベース

内部公開データベースとは、所内のイントラネット上にサーバーを立て、ネットワーク上の端末上から検索するデータベースを指す。平成 11 年度以来、日常的に運用しており、適宜、データベースの種類が増加とデータの更新をはかっている。なお、資料閲覧室における閲覧請求は、内部公開データベースを利用している。

現在稼働中の内部公開データベース

- ・ 定期刊行物所載古美術文献データベース
- ・ 定期刊行物所載近現代美術文献データベース（平成 13 年度 5 月より運用中）
- ・ 和漢書データベース
- ・ 伝統芸能関係図書データベース（平成 14 年 10 月より運用開始）
- ・ 保存修復関係図書データベース（平成 14 年 10 月より運用開始）
- ・ 古美術展覧会カタログデータベース
- ・ 売立目録データベース
- ・ 近現代美術展覧会情報データベース（平成 13 年度 5 月より運用中）
- ・ 『保存科学』所載文献データベース（平成 14 年 10 月より運用開始）
- ・ 所蔵写真データベース（画像データベース）（平成 13 年 11 月より試験運用中）

写真管理検索システムは、画像資料の収集・整理（ A6-01-1/5 ）の一環として平成 13 年度に作成したが、今年度は、一部プログラムを修正し、データ登録作業の汎用的な運用について協議を重ねている。

外部公開データベース

外部公開データベースとは、インターネットを通じて、外部からの検索を可能とするものを指している。東京文化財研究所で作成する共用データベースは、まず所内のイントラネット上で運用し、その運用実績を確認したのから、適宜、インターネットを通して、外部へ公開するという手順を踏んでいる。このような手順を踏むことで、1) 内部公開の運用実績を通して、外部公開の前に、内部的な運用評価を経ることができ、2) 内部公開データベースのデータは外部公開データベースに何らかの支障が発生した場合のバックアップともなる。3) 内部公開データベースには、画像データベースのように、東文研所蔵資料以外の資料を中心とするものがあり、これらは、資料の所蔵者との関係から、現在の慣例では、外部公開することができないものもある。

なお、東文研所蔵資料のなかで、黒田清輝関係資料は、ホームページ上で文字テキスト・作品画像等を網羅的に公開している。

現在稼働中の外部公開データベース（<http://archives.tobunken.go.jp>）

- ・ 和漢書データベース（平成 14 年 3 月から運用中）
- ・ 売立目録データベース（平成 14 年 3 月から運用中）
- ・ 近現代美術展覧会情報データベース（平成 15 年 3 月から試験運用開始）

外部公開データベースの平成 14 年度アクセス状況

・ 4 月	279 件	・ 5 月	68 件	・ 6 月	104 件	・ 7 月	2,004 件
・ 8 月	1,712 件	・ 9 月	2,161 件	・ 10 月	798 件	・ 11 月	2,169 件
・ 12 月	2,204 件	・ 1 月	1,426 件	・ 2 月	725 件	・ 3 月	1,642 件

年間アクセス総数： 15,292 件

平成 13 年度アクセス総数との対比 15,275 件増加

研究組織

井手誠之輔、塩谷 純、中村 節子、中村 明子（以上、情報調整室）

黒田記念室の公開（ B10-02-2/5 ）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画 125 点、素描 170 点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上 2 作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

平成 13 年 1 月より、2 階部分の改修工事がおこなわれ、従来の黒田記念室に加え、会議等に使用していた陳列室も展示室に改修され、2 室がギャラリーとなり、黒田清輝の作品を約 50 点展示することができるようになった。また、旧美術研究所所長室も、公開のスペースに改め、美術研究所時代の写真を展示し、パーソナルコンピューターを設置し、来館者にホームページを見ていただくコーナーとして活用するようにした。今年度 9 月からは、これまでの木曜日公開にくわえ、土曜日も公開することにした。

一般公開（無料） 毎週木・土曜日 午後 1 時～4 時

特別公開 2002（平成 14）年 10 月 29 日～11 月 4 日

入場者数 8,220 人（平成 14 年 5 月 2 日～平成 15 年 3 月 22 日まで）

アンケート実施（実施期間：平成 14 年 5 月 2 日～11 月 30 日まで）

なお、黒田記念室のパンフレット（A4 サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。

また、平成 14 年 5 月 2 日～11 月 30 日まで、来館者にアンケートを実施した。5,386 人の来館者に対して、1,125 人から回答を得た（来館者数の 21%）。回答は、「満足した」670 人（60%）、「勉強になった」220 人（20%）、「感動した」145 人（13%）、「わかりやすかった」28 人（2%）、「もの足りなかった」2 人（0%） その他であり、アンケート回答者の 95%が満足感を得たことになる。

研究組織

田中 淳 綿田 稔（以上、美術部）



展示室に改装された旧陳列室

黒田清輝巡回展 (B11-02-2/5)

黒田清輝の作品を多数所蔵している当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するために、昭和 52 年から「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」を年 1 回、地方において開催してきた。平成 14 年度は下記のように開催した。

会 場：鹿児島市立美術館

会 期：平成 14 年 7 月 18 日（木）～9 月 1 日（日）

主 催：東京文化財研究所 黒田清輝展実行委員会（鹿児島市、鹿児島市教育委員会、鹿児島市立美術館、南日本新聞社、MBC 南日本放送）

開催日数：40 日

入 場 者：41,025 人

陳列点数：油彩・パステル画 61 点、木炭デッサン 50 点、写生帳 17 冊、書簡 3 通、日記 5 冊、参考資料 6 点、記録写真 16 点（以上、黒田記念館所蔵作品） その他 23 点を他機関から借用した。

図 録：A4 判変形、170 ページ

なお、会期中、来館者にアンケートを実施し、476 人から回答を得た。

「大変よかった」230 人（48%）、「よかった」225 人（47%）、「あまりよくなかった」21 人（4%）という結果であり、回答者の 95%が満足感を得たことがわかる。

研究組織

田中 淳、綿田 稔（以上、美術部）

所蔵作品の貸与 (B12-02-2/5)

本年度の所蔵作品等の貸与は下記の通りであった。（3 件 4 点貸与）

・「小山正太郎と『書八美術ナラス』の時代」展

会 場：新潟県立近代美術館

会 期：平成 14 年 10 月 4 日～11 月 17 日

作 品：川村清雄「少女像」（油彩画）

・「印象派の故郷 ノルマンディーの風景」展

会 場：下関市立美術館、尾道市立美術館

会 期：平成 14 年 10 月 11 日～11 月 10 日、平成 15 年 1 月 11 日～2 月 16 日

作 品：黒田清輝「ブレハの海岸」（油彩画）

・「明治天皇と明治美術の名宝」展

会 場：明治神宮文化館

会 期：平成 14 年 10 月 19 日～11 月 25 日

作 品：黒田清輝「庭」（油彩画）、黒田清輝「寺尾寿博士像」（油彩画）

研究組織

田中 淳、綿田 稔（以上、美術部）

資料閲覧室運営 (A04-02-02/5)

資料閲覧室は、独立行政法人情報公開法の施行にともない、2002年10月1日より一般公開施設となった。研究所が所蔵する文化財関係資料のなかで、情報調整室が管理する各種図書資料・写真資料等は、資料閲覧室にて文化財関係研究者・大学院生をはじめ一般の方々へ、原則として祝日・年末年始(12/25～1/7)を除く、毎週月・水・金(10:00～16:30)に閲覧に供している。

資料閲覧室に管理委託される購入及び寄贈図書資料は、その目録作成作業をネットワーク上のリレーショナルデータベースシステムで一元的に管理し、日常的にデータ入力作業を継続・更新している。また公開データは、一部、イントラネットシステムを活用して閲覧者の利用に供している。現在、図書・雑誌・展覧会カタログ等の目録データは、5年計画のもとで、適宜、原本照合を進め、冊子体の目録発行を行っているが、これまでに発行した蔵書目録2冊は閲覧室で利用者の検索用に提供している。また公開可能なデータはイントラネット上の運用評価を経た上で、インターネットを通して外部に提供していく予定である。

資料閲覧室にて作成・更新中の目録データベース(26種)

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| ・所蔵和漢書データベース(2001年度まで) | ・受入和漢書データベース(2002年度分) |
| ・所蔵洋書データベース | ・所蔵簡易図書データベース |
| ・所蔵売立目録データベース | ・所蔵美術館博物館収蔵目録データベース |
| ・所蔵和雑誌誌名データベース | ・所蔵洋雑誌誌名データベース |
| ・所蔵中国雑誌誌名データベース | ・所蔵韓国雑誌誌名データベース |
| ・所蔵和雑誌巻号データベース(1998年度まで) | ・所蔵洋雑誌巻号データベース(1985年度まで) |
| ・所蔵和雑誌巻号データベース(1999年以降) | ・所蔵洋雑誌巻号データベース(1986年以降) |
| ・所蔵中国雑誌巻号データベース | ・所蔵韓国雑誌巻号データベース |
| ・所蔵地方公共団体刊行報告書データベース | ・所蔵香取秀真資料関係データベース |
| ・所蔵古美術展覧会データベース | ・所蔵古美術展覧会図録データベース(1944年まで) |
| ・所蔵近現代美術展覧会図録データベース(1944年まで) | |
| ・所蔵近現代美術展覧会図録データベース(1945～98年) | |
| ・所蔵近現代美術展覧会図録データベース(1999年以降) | |
| ・近現代展覧会開催情報データベース(1944～96年) | |
| ・美術館博物館名データベース | ・近現代作家名データベース |

目録所在情報に関する平成14年度の実績

目録所在情報の種類	26種
目録所在情報作成件数	141,594件
目録所在情報収録件数	309,289件
イントラネットで公開中の目録累計数	9種(他部作成分を含む)
目録所在情報公開件数	286,176件(他部作成分を含む)

平成14年度における閲覧資料室の利用状況(但し、所内閲覧者を除く外部閲覧者)

・4月 48人	・5月 61人	・6月 53人	・7月 64人
・8月 35人	・9月 50人	・10月 73人	・11月 73人
・12月 67人	・1月 35人	・2月 69人	・3月 54人
年間合計 682人	平成13年度の利用者数との対比 84人増		

研究組織

井手誠之輔、塩谷 純、中村 節子(以上、情報調整室)

国際資料室の整備・公開・活用（ F08-02-2/5）

目 的

本プロジェクトは、国際文化財保存修復協力センターの国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料を充実させ、国際文化財保存修復協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。

成 果

資料の充実：

1) 外国の文化財や文化財保存の現状および理念、2) 文化財保存関連機関、3) 文化財保護制度、4) 日本および諸外国の文化財保護関連法令、5) 各種文化論などの分野について、書籍や映像資料、デジタルデータの購入、資料交換などによる入手を行い、資料室の充実を図った。また、千原大五郎氏旧蔵資料の受入と整理を行い、日本の文化財保護行政および国際協力に関する資料が利用できるようにした。さらに、昨年度に引き続き文化財保護関連法令資料の収集・整理（データベース化）が行われている。

資料目録の作成：

昨年度作成した、国際文化財保存修復協力センター独自の分類コードにもとづき、Microsoft Access により資料の名称、出版年、分類コード等基礎データの入力・データベース化の作業を行った。今年度入力が完了した 900 点余りのデータは、『国際資料室所蔵資料目録』として出版した。

研究組織

二神 葉子、斎藤 英俊、西浦 忠輝、岡田 健、稲葉 信子、
朽津 信明、秋山 純子、平賀あまな（以上、国際文化財保存修復協
力センター）



国際資料室所蔵の法律関係図書

伝統芸能の画像・音声・映像資料のデジタル化（ C06-02-2/5）

目 的

芸能部では、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。上演とともに瞬時に消え去る運命にある芸能を研究するために、これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このために芸能部では、画像・音声・映像資料のデジタル化の推進を計画している。

成 果

本年は、特に劣化の進みやすいオープンリール・テープに残された音声資料のCD化を進め、寄贈資料の公開に向けて調査研究を行った。

研究組織

宮田 繁幸、鎌倉 恵子、高桑いづみ、児玉 竜一、俵木 悟、松村智郁子（以上、芸能部）

文化財保存に関する国際情報の収集及び研究 データベースの作成・公開 (F07-02-2/5)

目 的

本プロジェクトは、国際文化財保存修復協力センターで実施するさまざまな調査・研究により得られた情報を、空間データベースとしてインターネットを通じて広く公開し、文化財保存国際協力を役立てることを目的とする。

成 果

空間データベースの構築：

昨年度に引き続き、タイ、カンボジアにおいて、デジタルカメラと GPS 受信機を用いて調査地点の位置情報および時間情報、画像情報を取得した。これらの情報を、位置情報を与えたタイの官製地図の画像および電子地図と組み合わせたデータベース上に登録し、情報の充実を図った。また、今年度から予備的な調査が行われているアフガニスタン・バーミヤン遺跡付近の、CORONA 衛星による画像を用いて、立体的な地図の作成を試みている。この作業は、別の衛星の画像も利用して、来年度も引き続き実施する。

千原大五郎氏旧蔵書籍等資料の整理・データベース化：

千原大五郎氏(1916～1997)は、1972年にインドネシアにある仏教遺跡ポロブドゥールの修復に修復工事技術諮問委員として参加するなど、最初期から日本の文化財保存国際協力活動に携わってきた専門家の一人であった。2002年5月に、千原氏が収集してきた国際関係資料が東京文化財研究所に寄贈された。その資料は、書籍、雑誌、写真など多岐にわたる。特に、ポロブドゥール修復事業に関する資料は、事業の計画段階からの会議録、書簡類、修復案、図面など豊富であり、今後の研究により事業の詳細な内容などについて明らかにすることが可能である。これらの資料のうち、書籍及び雑誌について、国際文化財保存修復協力センターにおいて分類・基礎データの入力を行い、『千原大五郎資料目録(書籍・雑誌編)』として出版した。

研究組織

二神 葉子、斎藤 英俊、西浦 忠輝、岡田 健、稲葉 信子、朽津 信明、秋山 純子、平賀あまな(以上、国際文化財保存修復協力センター)、井上 敏(調査員)



千原大五郎先生旧蔵ポロブドゥール関係資料



『千原大五郎資料目録(書籍・雑誌編)』

システム管理 (A02-02-2/5)

東京文化財研究所のネットワークシステムは、平成 12 年度に導入し、順調に稼働している。所内ネットワークは、3 階の LAN 機械室と各フロアにそれぞれ 1GB スwitchングハブを設置し、その間のバックボーンに 1GB/s 高速光軸ケーブル(SMF ケーブル)を配線している。各フロアのスイッチングハブと研究室・居室等の間は、100MB/s の光軸ケーブルで連絡し、研究活動及び日常業務が遅滞なく円滑に遂行できる環境にある。

外部との間には Firewall を構築し、外部からの不正アクセス・ウイルス感染等に対処している。

所内システムの運用については、システム管理者を情報調整室長が担当し、各部・センターから選出された委員とともに LAN 委員会を構成し、新規メールアドレスの所得やシステム全体の日常的な運用・中長期的な更新計画、保守契約等について協議している。

ネットワーク上のサーバーシステム一覧

- ・外部 DNS/Mail/WWW サーバー
- ・外部 NEWS サーバー
- ・内部 DNS/Mail サーバー
- ・内部 DNS/File/Group Ware サーバー
- ・代理要求サーバー
- ・ドメインコントローラサーバー
- ・DHCP サーバー
- ・ファイヤーウォールサーバー
- ・外部データ交換用 FTP サーバー
- ・Map 情報公開用 WWW サーバー
- ・データ公開用代理要求サーバー

ほかにイントラネット上で運用する画像サーバー、データベースサーバー、所内スケジュール管理用サーバー等がある。

研究組織

井手誠之輔(システム管理者、情報調整室) 篠原 和宏(管理部 LAN 委員) 津田 徹英(美術部 LAN 委員)
宮田 繁幸(芸能部 LAN 委員) 石崎 武志(保存科学部 LAN 委員) 森井 順之(修復技術部 LAN 委員)
二神 葉子(国際文化財保存修復協力センターLAN 委員)



LAN 機械室

写真室の運営・設備 (A06-02-2/5、 A07-02-2/5)

写真室では、各研究部門の要請にしたがって、文化財の研究に必要な画像を形成している。写真室の日常業務は、画像資料の収集・整理 (A06) 撮影機材、写場の設備等については、写真機材・設備 (A07) の 2 つのプロジェクトを主体とし、適宜、他部のプロジェクトの協力を仰ぎながら、常時、最新の技術開発に即応できる体制を維持している。

昨年度、フルカラー化とデジタル技術の応用という観点から、画像の入力から出力、画像データの管理、形成画像の公開などのルーチンをすべてデジタル化へ移行したが、日進月歩の技術革新にともない、入力系から処理系のデジタルデータも大容量化している。写真室で作成された画像データは、インデックス画像を画像データベースへ登録し、資料閲覧室で公開する写真は、フルカラープリントを作成し、さらにラミネート加工を施して、資料の永続的保存と使用の便を図っている。蓄積される画像データは、大容量化にともない、適宜、CD-R から DVD-R へ移行している。なお、現有の主な写真機材は以下の通りである。

デジタル入力機材 (カメラ及びレンズ)

	品目	用途	製品名	S/N	生産国	備考
1	Camera	デジタルフルカラー撮影用	sinar P3	12901	Switzerland	デジタル撮影用
2	DigitalBack		sinar DigitalBack 44HR	8101 44	Switzerland	デジタルフルカラー撮影用
3	Lens		sinaron digital 1: 2,8 f=28mm	14797219	Germany	デジタルフルカラー撮影用
4			sinaron digital HR 1: 4 f=35mm	11649441	Germany	デジタルフルカラー撮影用
5			sinaron digital HR 1: 4 f=100mm	11639635	Germany	デジタルフルカラー撮影用
6			sinaron digital HR 1: 4 f=60mm	11636175	Germany	デジタルフルカラー撮影用
7	Camera	近赤外線撮影 / 蛍光撮影用	HASSELBLAD 555ELD	12SS11018	Sweden	近赤外線撮影 / 蛍光撮影用
8	DigitalBack		kodak DCS Pro Back Plus	DCSPB-1223	USA	近赤外線撮影 / 蛍光撮影用
9	Lens		CFi 50mm HASSELBLAD Distagon 4/50 T*	8876451	Germany	近赤外線撮影 / 蛍光撮影用
10			CFi 120mm HASSELBLAD Makro-Planar 4/120 T*	8866420	Germany	近赤外線撮影 / 蛍光撮影用
11	Camera	デジタル撮影用	Canon EOS-1Ds	107441	Japan	黒田清輝書簡デジタルコンテンツ資料作成用
12	Lens		Canon Compact-Macro Lens EF 50mm 1: 2.5	267045	Japan	黒田清輝書簡デジタルコンテンツ資料作成用

アナログ入力機材 (カメラ及びレンズ)

	品目	用途	製品名	S/N	生産国	備考
1	Camera	35mm用	Nikon F100	2045439	Japan	35mm 用カメラ
2	Lens		NikonAF MICRO NIKKOR 60mm 1:2.8 D	3094053	Japan	35mm 用 近接撮影レンズ

3			Nikon Medical-NIKKOR Auto 1:5.6 f=200mm	121297	Japan	35mm 用 近接撮影レンズ
4			Nikon AF NIKKOR 28-200mm 1: 3.5-5.6 D	257141	Japan	35mm 用 ZOOM レンズ
5			Canon Compact-Macro Lens EF 50mm 1: 2.5	267045	Japan	35mm 用 近接撮影レンズ
6	Camera	645用	CONTAX 645	002891	Japan	スタジオ用カメラ
7	Lens		CONTAX Apo-Makro-Planar 4/120 T* Carl Zeiss	8798941	Japan	スタジオ用
8	Camera	4×5 インチ用	sinar P2	50050	Switzerland	4×5 インチ用カメラ
9			Linhof Technika	C511117	Germany	4×5 インチ用カメラ (屋外用)
10	Lens		Nikon NIKKOR-AM*ED 120mm 1: 5.6	200371	Japan	4×5 インチ用 近接撮影レンズ
11			Nikon NIKKOR-AM*ED 210mm 1: 5.6	300165	Japan	4×5 インチ用 近接撮影レンズ
12			Schneider-KREUZNACH SUPER-ANGULON 5.6/90XL-110 ° MULTICOATING	14608751	Germany	4×5 インチ用 広角レンズ
13			Schneider-KREUZNACH SUPER-ANGULON 1:8/90 °	12468813	West Germany	4×5 インチ用 広角レンズ
14			Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 5.6/210 MULTICOATING	14661032	Germany	4×5 インチ用 標準レンズ
15			Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 1: 5.6/150 1:12/265	11332779	Germany	4×5 インチ用 標準レンズ
16			Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 5.6/150 MULTICOATING	14682447	Germany	4×5 インチ用 標準レンズ
17	Camera	8×10 インチ用	TOYO -VIEW	119-10002 39	Japan	8X10 インチ用カメラ (屋外用)
18	Lens		Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 5.6/300 MULTICOATING	14662849	Germany	8X10 インチ用 標準レンズ

照明機材 (Broncolor 社製)

	品目	用途	製品名	S/N	生産国	備考
1	Generator	スタジオ使用	grafit A2	200757	Switzerland	
2				200758	Switzerland	
3				200759	Switzerland	
4			primo4	180342	Switzerland	
5				180343	Switzerland	
6				170240	Switzerland	
7		海外用(屋外)	TopasA4		Switzerland	
8				mobile		Switzerland
9	Light Head	海外用(屋外)	primo	184487	Switzerland	
10				184491	Switzerland	
11				184494	Switzerland	
12				184495	Switzerland	

13		スタジオ使用	PULSO F4	D035839	Switzerland			
14				D035841	Switzerland			
15				D035842	Switzerland			
16				177090	Switzerland			
17				177436	Switzerland			
18				屋外使用	picolite	180142	Switzerland	
19						180143	Switzerland	
20	191045	Switzerland						
21	C121823	Switzerland						

照明機材 (COMET 社製)

	品目	用途	製品名	S/N	生産国	備考	
1	Generator	スタジオ使用	COMET CX-244TC	2612001	Japan		
2				2612002	Japan		
3				2612003	Japan		
4				2612004	Japan		
5			CX-124TC	Y512003	Japan		
6			出張用	CB-2400	A604027	Japan	
7					A604028	Japan	
8	Light Head	スタジオ使用	CAX-slide	A505901	Japan		
9				A505902	Japan		
10				A505903	Japan		
11				A505904	Japan		
12				A505906	Japan		
13				A505908	Japan		
14		出張用	CLX-25miniG	A604211	Japan		
15				A604212	Japan		
16				A604213	Japan		
17				A604214	Japan		

特殊光源装置 (ROFIN 社製)

	品目	用途	製品名	S/N	生産国	備考
1	ポリライト	蛍光撮影用	ROFIN POLILIGHT PL500	1328	Australia	
2				1364	Australia	

研究組織

井手誠之輔、塩谷 純、城野 誠治 (以上、情報調整室)